

講演

杉本博司

「写真の後に」

2014年7月16日[水] 春秋座

京都造形芸術大学人間総合センターラウンジ企画展「杉本博司+京職人：メダカの学校」(写真：渡邊 修) <http://kuad-entrance.com>



杉本博司の「海景」や「シアター」を初めとする写真作品は、発表された時からすでに古典であったと言ってよい。極端に言えば、彼は銀塩写真がその歴史の終点に近づきつつあるときに現れた「最後の写真家」なのだ。しかし、杉本博司は、写真をめぐる仕事を続ける一方で、骨董や化石を用いた「歴史の歴史」展のような仕事、建築やインテリアなどのデザイン（京都造形芸術大学人間館エントランスラウンジで開催中の京都の職人とのコラボレーションによる「メダカの学校」展はその一環だ）、文楽などのパフォーマンス、その他きわめて多様な活動を展開しており、現在もパリのパレ・ド・トーキョーで「今日、世界が死んだ」展（4月25日～9月7日）を開催する一方、ヴェネツィア・ビエンナーレでガラスの茶室を展示するなど、その活動の幅は広がるばかりである。その杉本博司を迎え、最新のさまざまな活動について、またその背後にあるヴィジョンについて、多角的に話を聞く。写真というジャンルを超えてアート全般に興味をもつすべての人に。

モデレーター 浅田 彰

（京都造形芸術大学大学院学術研究センター所長）

2014年7月16日 [水] 18:00開始 (17:30開場)

京都芸術劇場 春秋座 [京都造形芸術大学内]

入場無料 | 定員400名 | 当日先着順・事前申込不要

お問い合わせ — 京都造形芸術大学大学院芸術研究科

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 電話 075-791-9122 [代]

<http://www.kyoto-art.ac.jp/graduate/>



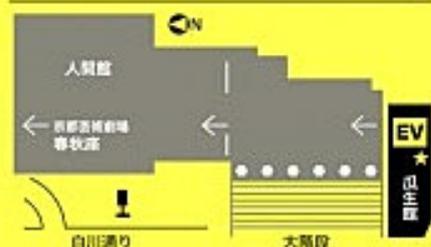
杉本博司 (すぎもと ひろし)

1948年東京生まれ。1974年よりニューヨーク在住。現代美術家として、世界中の美術館に作品が所蔵。2008年建築設計事務所「新素材研究所」設立。IZU PHOTO MUSEUM (静岡) 他、建築分野でも活動。近著に『空間感』(マガジンハウス)、『アートの起源』(新潮社)。構成・演出・美術を手がけた人形浄瑠璃『杉本文楽 曾根崎心中付り観音廻り』は2013年秋に欧州3カ国で公演。2014年3月大阪フェスティバルホール、世田谷パブリックシアター(東京)で日本凱旋公演。2009年高松宮殿下記念世界文化賞受賞、2010年紫綬褒章受章、2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ受勲。

京都芸術劇場 春秋座 [京都造形芸術大学内]  
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116



- JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上鞍町・京都造形芸術大学」下車 (京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)
  - 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から京都市バス204循環に乗車、「上鞍町・京都造形芸術大学」下車(約15分)
  - 京阪電車出町柳駅から 鞍馬電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分
- ※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はお断りします。



大学大階段にエレベーターが新設されました。白川通りから劇場1F(人間館1F)へは、新設の瓜生館エレベーターをご利用下さい。